

阿波市まちづくりミーティング テーマ：「土柱と周辺環境保全の具現化」

(提案；今後の観光地としての土柱観光をどのように保全するか)

2025/1/29 「土柱の環境を考える会」

・町田市長あいさつ

皆さんこんにちは、本日はまちづくりミーティングに申し込みいただきありがとうございます。

この阿波市まちづくりミーティングは、私が市長就任初年度に、市民の皆様のご意見を伺い、意見交換することにより相互理解を深め、市民協働の醸成や市政運営に生かすことを目的として、その場を設けさせていただいております。

本日申込みいただいております団体の皆さんのボランティア活動も存じております。

私も阿波町職員時代、昭和9年に国の天然記念物に指定された「阿波の土柱」は観光名所として多くの観光客が訪れていたことを承知しております。

しかしながら、その時代と比較すると、土柱の存在感がうすれているように思います。

歴史ある土柱を阿波市の観光拠点として、地域振興の拠点として、市民のみなさんと行政で役割分担しながら何ができるか考えて参ります。

本日は、皆さんが活動されていること等を通じ、直接の観光客の声や土柱の活性化等についてご意見、提言等をお聞かせいただき、今後の阿波市のまちづくり、観光行政の再生を考えて参りたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

・団体の声（思い）

歴史ある観光名所である国の天然記念物「阿波の土柱」を後世に残すため、またかつての賑わいや、子どもたちの学習の場として利用を望み、土柱そのものや周辺の環境保全を目的に活動を続けている団体です。

世界三大奇勝と呼ばれた歴史ある観光名所「四国八十八景」にも紹介されている

「阿波の土柱」は、100年という経年でその壮大な姿が変化しています。

また、かつて観光地として賑わっていた商店等もシャッター街となり、土柱の玄関口としてその景観が損なわれ、訪れた観光客への印象が心配されます。

観光していただいたお客様に持ち帰っていただきたい印象は、再度土柱に来る、家族や友人、知人、職場など多くの方に土柱を紹介して欲しい、リピーターとして訪れていただきたい。そういう思いがあります。

そうした思いは、近年土柱の風化が加速化している状況に危機感をもち、土柱やその周辺の環境保全を話し合い、具現化を求める活動を継続的に続けて参ります。

○申請団体資料に沿いプレゼン・メンバーからの提案

・市長コメント（まとめ）

貴重なご意見ありがとうございました。

観光庁でも、地域と一体となった観光づくりを進めています。

一例として香川県の秩父が浜は6年で観光客が100倍になったとも云われております。

観光資源の歴史・文化は非常に重要で、阿波市の観光拠点となる「阿波の土柱」の周辺整備や環境保全は本市の責務として重要視しなければならない課題でもあります。どうすれば人を呼び込めるのか。

市町村合併から20年間、いろんなことをしてきましたが、かつての賑わいや観光入り込み客の増はなかなか難しくなってきたように思われます。

また、経年変化が加速する中で、阿波市の「土柱」の歴史をどのように後世に残していくか。現状をしっかりと把握した上でスピード感をもって「再生計画」を策定することから始める必要があると考えます。

人流増加、経済効果の上がる方策を考えて参りたいと思います。

その際、予算も必要であり、議会の協力が欠かせません。

計画を立てる、交付金や補助金を活用し、最小限の経費で最大限の効果が出るように考えてみたい。

今後とも官民で役割を分担し、皆様のご理解ご協力のもと、周辺環境が保全できるよう努力して参ります。

本日は、誠にありがとうございました。